

さくらじま

134号

発行：
公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会
会長 東 和沖
鹿児島市鴨池新町1-7県社会福祉センター内
Tel 099 (213) 4055
Fax 099 (213) 4051

URL:<http://www.minc.ne.jp/~jacsw> E-mail:jacsw@po.minc.ne.jp



会長挨拶

公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会
会長 東 和沖

5月の会員総会において会長に選出された東 和沖です。よろしくお願ひします。
現在は、鹿児島市役所に人権啓発室長として勤務し、来年3月には定年退職を迎える59歳です。

今回、副会長には田中正信氏と有木保幸氏が選出されました。外部理事には上山幸正弁護士、梅垣晃一司法書士、林芳郎医師が、会員理事には久保誠氏、新川光郎氏、福田竜光氏、山口健一郎氏が、外部監事に瀧脇隆一氏、会員監事に吉森幸一氏が決定されました。また、宇都幸雄氏と江良喜代子氏のお二人に顧問に就任いただきました。

新執行部とともに、これまで本会の礎を築いてこられた会員の意志を引き継ぎ、組織基盤の強化に向けた取り組みを更に進め、次世代の職能団体へと発展できる組織作りを目指していきます。

日本は、急激な少子高齢化と本格的な人口減少に加え、多様化・複雑化するニーズに対応しなければならない時代に突入した感があります。

また、最近では、虐待、いじめなどの痛ましい事件・事故が連日のように報道されています。社会保障制度も、制度はあっても運用が不十分な事例、うまくニーズに結びつけられていない事例もあると聞きます。

こういう時代だからこそ、福祉や医療における適正なソーシャルワークの重要性が高まり、ソーシャルワークの専門職である社会福祉士の資質向上が求められてくると思います。

我々は、社会福祉士資格を取得し、社会福祉士会に参加し、会の研修制度や相互交流の場を活用して自らの資質向上を図れる環境にあります。

個々の資質向上そのものが、職場・地域・県・日本全体の福祉の向上に繋がることを自覚し、会の制度を目一杯利用して、楽しみながら前進してもらいたいと考えます。

そのためにも、会の活動が活気づくように、みなさんと協力しながら、会の事業を推進していきたいと思ひます。みなさんのご協力とご支援をお願ひします。

私と鹿児島県社会福祉士会 ～退任のご挨拶～

公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会
前会長 久留須 直也

令和元年5月26日に行われた2019年度会員総会を機に会長を退任させていただきました。任期中、会員の皆様にはご指導、ご協力、ご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

会長として、平成27年度総会より令和元年度総会の4年間の就任でしたが、理事としては、平成16年度総会から令和元年度総会まで、15年間という長い期間、活動させていただきました。任期中は、本当に様々な経験をさせていただきました。

平成13年に大学卒業後、社会福祉士として、鹿児島市内の医療機関で勤務していたところ、平成14年に新会長である東和沖氏より、お話をいただき、ホームレスサポート委員会の初代委員長として活動させていただきました。その当時のホームレスサポート委員会は、鹿児島市からの委託事業がある訳ではなく、数名の委員と一緒にボランティアとして月に2回、夜間に調査を行っていました。まずは、すべての調査に参加しなくては、鹿児島のホームレスの状況を把握できないこと、併せて他の委員にアドバイスができないと思い、年に24回の夜間調査を行ったことを懐かしく思います。

平成15年度より、地区支部長及び委員長は鹿児島県社会福祉士会（以下、本会）の理事を兼ねる（その当時の定款・規定で定められていたかは不明ですが…）ということで、24歳で理事となりました。

その後、平成5年度に任意団体として設立された本会が平成19年度から社団法人となります。社団法人化する際、霧島にある合宿所において、当時の理事の方々と夜遅くまで泊まり込みで、定款や各種規定などを作り上げたことを思い出します。

平成24年度からは、公益社団法人となりました。この公益法人化の実現は、間違いなく久永繁夫 元会長のご尽力があつてのことでした。私は当時、副会長でありましたが、何もできず、今でも只々申し訳なく思う次第です。

平成26年7月5日(土)・6日(日)に開催されました、「第22回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉学会（鹿児島大会）」では74名の実行委員の会員の皆様のおかげで無事、終了することができました。大会参加者は1,045名、懇親会の参加者も416名と、目標にしていた参加者1,000名も達成することが出来ました。私も副実行委員長として微力ではありましたが、少しは開催に貢献できたのではないかと思います。

そして、平成27年度より久永繁夫 元会長の後任として会長に就任しました。それまで副会長として、

会長の職務を一番身近に見てきたつもりでしたが、実際に会長となり、その重責は想像以上のものでした。もちろん、久永繁夫 元会長と同じように動くことはできないことは私自身も分かっていました。しかし、「本会の良いところは継続するが、変わらなくてはならないところは変えていく」という思いのもと、本会の運営を会員の皆様と一緒に進めて参りました。また、多くの会員の声を聞くために、各地区支部へ訪問し、地区支部長からのヒアリングもさせてもらいましたが、私の力不足のため、十分に本会の運営に反映させることができなかつたと思います。

一方で、様々な会員と話をする中で、変わることに對しての不満を持つ会員がいることも明らかになったことは私にとっての驚きでもありました。「今まで通りの本会でいい」や「なぜ、変わる必要があるのか」という声を聞くことも多々ありました。そのような本会に魅力があるのか？このままで本会の発展はあるのか？という思いもありました。しかしこのような考えを持つ会員に對しても、私の説明が足りなかつたと反省しております。

このように理事の任期を振り返ってみると、改めて私自身の力不足を感じてしまうことばかりで、会員の皆様に申し訳なく思います。これからの本会の発展については、東和沖 新会長をはじめとした新執行部に後を託したいと考えております。

執行部を経験して、会員の皆様へ對し、私から最後のお願ひがあります。執行部の方々は、それぞれの所属先で仕事をしながら、月に1回の三役会をはじめ、週に1回の事務局での業務など、数多く本会の業務を行っております。併せて、本会の主な収入は会員の皆様からの会費であるため、執行部は無報酬（実費の交通費のみの支給）となっております。執行部は会員の皆様が思っている以上に非常に大変な業務を担っています。このような状況でもあり、本会の運営は会員の皆様のご協力が必要不可欠となりますので、ご理解・ご協力のほど何卒よろしくお願ひいたします。

改めまして、会員の皆様に頂戴しました厳しくも温かいご支援ご協力に、心より感謝申し上げます。今後は、一会員に戻り、本会の更なる発展に微力ながら貢献したいと考えております。新会長・新執行部に変わらぬご支援ご協力をお願いし、退任の挨拶とさせていただきます。

理事就任のご挨拶

副会長 田中 正信

この度、副会長に就任しました田中正信です。2年間、よろしく願いいたします。

私はこの1年、副会長を務めましたが、前任者からの引継ぎでしたので、一旦任期終了となり、今回の総会で再度理事(副会長)に就任することとなりました。したがって、任期で申し上げますと「二期目」ということになります。

今回の改選では、私を除く全会員理事が任期満了などの理由で退任しました。前の体制を知る理事として、新体制でしっかりと役目を果たしていきたいと思っております。

理事の仕事是一年やって感じたこととして、理事の役割は大きく分けて二つあるということです。一つは言うまでもありませんが、社会福祉士会のための様々な施策を企画、実行していくことです。そしてもう一つは、県や市町村等の様々な委員会の委員としての活動です。行政機関などの様々な委員会(約20)の委員に各理事が就任し、主に平日の会議などに出席し、意見を述べるなどしております。私も複数の委員会の委員として多くの会議に出席しました。これら委員会の委員に社会福祉士会の理事が就任していることは理事になって初めて知ったことです。

社会福祉士会が抱える問題はたくさんありますが、ここでは具体的などころまでは踏み込まないでおきます。その都度、会員の皆様や理事会などで議論していきたいと考えております。場合によっては、各地区支部に伺う機会もあるかもしれません。その時にはよろしく願いいたします。

副会長という重責ではございますが、持てる力を十分発揮できますよう頑張っております。会員の皆様のお力添えを是非ともよろしく願いいたします。

副会長 有木 保幸

先般の役員改選で副会長に選任されました南九州市の高齢者総合福祉施設「音野舎」に勤務しております有木保幸です。今回は南薩支部推薦による会員理事として社会福祉士会の活動の一助になればと考えておりましたところ、思いもよらぬ役をさせていただくことになり身の引き締まる思いでおります。

社会福祉士会での活動としては、以前に社団法人化の取り組みや総務・企画委員会に所属して介

護支援専門員受験対策講座を担当していました。社会福祉士を取り巻く状況は、福祉ニーズの変化等に伴い、従来の高齢者や障害者、子育て等の支援に限らず、スクールソーシャルワーカーや地域共生社会の推進など活躍の分野も広がってきています。

様々な分野で活動する社会福祉士が、多様化・複雑化する課題に対応するために相談し合える場として、あるいは情報を共有し研鑽する場として、本会が少しでも会員の皆様のお役にたてるよう努めてまいりますので、会員の皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

大島地区支部 久保 誠

こんにちは。今回、理事に就任しました大島地区支部の久保と申します。一見まじめそうに見えますが、自称「5時から男」です。

趣味は、ゴルフ・ソフトボール・酒飲みのアナログ昭和人間だと思っています。

原稿を依頼されたときは、何を書こうか悩みましたが、仕事のことや社会福祉については堅くなりますので止めて、少し面白エピソードを書きたいと思います。

私は、現在63歳ですがいまだに奄美市と龍郷町でソフトボールをしています。奄美市のチームは高校の同級生で作り38年余り続いています。“打てない・投げれない・走れない”の3拍子揃ったチームですが、これでもたまに勝ったりもします。試合後の酒飲みのために続けていると言っても過言ではありません。また、龍郷町のチームは私より先輩が3人(64歳、68歳、70歳)いて、珍プレー続出のチームです。この前の試合では、私が一塁を守っている時ボテボテのゴロが一塁に飛んできたので、ダッシュ(自分の思い)して前に捕りに行くと、足がもつれてボールに届く前に転びました。それだけだとまだ良かったのに、それをフォローに来た2塁の70歳の先輩も足がもつれて倒れ、大爆笑でした。こういうことが増えてきますと、年をとったなあと痛感いたします。いつまで続くか分かりませんが、今後ともケガのないよう頑張りたいと思います。

このような私ですが、2年間県社会福祉士会のため頑張っていきたいと思っておりますので、皆様方のご指導ご協力よろしく願い申し上げます。

理事就任のご挨拶

北薩地区支部 山口 健一郎

皆さん、こんにちは。私は北薩地区支部所属の山口健一郎という者です。昭和42年生まれです。西の言い方だと1967年生まれです。半世紀を生き抜いた？何とか生きられた？者です。「人生100年時代」と首相が高らかに言われています。私は半世紀生きる事が出来ました。振りかえりますと、空き地で野球したり川で魚取りをしていた幼少期、県外で仕事をしていた金融機関時代。帰省してからの人生。その点で原点と捉えるのは「家族や家庭」です。

そこは活力の再生産の場所と考えています。それであるべく私はそうなる様に生きてきたつもりです。例えば仕事だけの生活にならない様に。それが主流になると家族の不満も出てきます。「稼がないと！」「仕事だから仕方ない！」が世間の主流を占める様になれば自分の生活スタイルを崩し体調を崩し家庭を壊します。猛烈に働いてスピードを求める様になって、効率を求める時代になって、他より少しでも秀でていないと済まないなどの戦後からの風潮が現代の病巣になっているのでは？と考えてしまいます。

生き辛い世界にならない様に。方向性や支援を急ぐ場合もあると思いますが、ゆっくり寄り添い慌て無い慌てさせない事などが実は我々に求められていることではないか？と思います。その中で専門的知識はしっかり身につけておく事で、その様な対応が出来るのだろうと考えています。難しいことですが決めつけではなく見立てが出来ているのも一つだと思います。それが出来るようになる様には研修を受けたりすることも一つの手だと考えます。またこの業界知識だけでなく、人生の講座を聞いたり音楽から学んだり様々な分野にも興味を持つ事が我々の仕事に役立つ事と思います。

生き辛い100年にならない様に微力ながら私の経験や知識が役立てられれば幸いです。共に考えたり悩んだりしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

新川 光郎

浅学非才ながら、地区支部推薦理事として承認をいただきました新川と申します。

私が社会福祉士を目指すきっかけとなったのが、福祉職場への人事異動でした。窓口を訪れる高齢者・障がい者等からの相談内容は、介護保険・障がい者手帳申請、生活困窮者支援等様々で、制度説明・行政経験だけでは、本人・家族に寄り添った対応ができませんでした。その後同僚

とともに専門学校通信課程に入学し、社会福祉士・精神保健福祉士の資格を取得。しかし、資格だけでは自分自身何も変わらず、取得後の自己研鑽・福祉専門職同士の情報交換の必要性を強く感じました。

福祉の充実と向上が課題となっている現在、福祉サービスの内容も多様化し、社会福祉関係スタッフにも、より専門的な知識や技術、様々なニーズに的確に対応できる質の高い人材が求められています。これからの社会福祉士会は、「資格を持つ集団」から「持っている資格が使える専門職集団」になる必要があると考えます。

私自身、今後も一会員としての研鑽に努めるとともに、今回与えられた職責を全うするためにも「社会から認知される魅力ある組織づくり」に尽力したいと考えます。分不相応ではございますが、会員皆様のご指導・ご協力をよろしくお願い致します。

霧島・始良地区支部 福田 竜光

この度、本会総会にてご信任いただき、理事を拝命しました霧島・始良地区支部の福田竜光です。この場をお借りし、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、鹿児島国際大学を卒業後、特別養護老人ホームに勤務、現職の霧島市社会福祉協議会 霧島市地域包括支援センターで社会福祉士・認知症地域支援推進員として総合相談支援業務・権利擁護業務、認知症施策等に携わり13年目を迎えました。

霧島・始良地区支部から地区推薦理事としてお声かけいただいた際は、正直、「私のような若輩者が務まるものか。」と不安も大きく、また「会員として本会に如何ほど携わることができただろうか。」と自身を振り返る日を送りました。そのような中、霧島・始良地区支部の活動に尽力されている岡元健二地区支部長や役員の方々とは会話を重ね、また本会員はもちろんのこと多職種・多業種の方々とは歩んできた道を振り返り、「若輩者の私にも伝えられること、できることがある。」と決意を抱くことができました。

「我が事・丸ごと」「地域共生社会」の実現が求められる昨今、人と出会い、紡ぎ合わせること（連携・調整）で複合的課題に対する相談・援助を行う社会福祉士は、より一層大きな期待と役割を担うことになると考えます。

皆様のお力添えをいただきながら、2年間勤めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。